

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 (2単位)	3. 科目番号	SJMP1142 SSOT2423 SCOT2423 SJMP1142 SJMP1142
2. 授業担当教員	濱野 ゆうり		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	体力や運動能力の低下が報告されていることは周知の通りである。そこで、保育者として幼児や児童の発育発達に大きく関与する訳であるから、遊びや身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、学生自身の身体能力や運動技能を高めることが重要である。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材を作成したり、学生同士で声掛けなどを実践しながら具体的な指導法を学習する。運動あそびにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 自分の体を自分でコントロールする能力を養い、運動技能を高める。(具体的には、走る・スキップ・ギャロップなどやマット・跳び箱・鉄棒などが、子どもたちの見本となる様にできること。) 2, 子どもの運動あそび、リズム、身体表現の楽しさを味わい、指導・援助の方法の理解を深め、指導・援助ができる。(指導方法や声掛けなどを学ぶ。) 3, リズム体操、身体表現の教材がつくれる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【実技試験として】模擬授業の実践 (計画・教材づくり・実践・振り返りまでを含みます。)</p> <p>【課題レポートとして】現代の子どもを取り巻く環境について考察したうえで、子どもの発育発達に必要な身体活動と環境についてのレポート (詳しくは、講義で指示する。)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】適宜資料を配布します。</p> <p>【参考書】</p> <p>幼児体育 理論編 日本幼児体育学会 前橋明 編 大学教育出版 幼児期運動指針 文部科学省 2012 幼児期運動指針実践ガイド 日本発育発達学会編 杏林書院 2014 幼児期からのアクティビティブチャイルドプログラム 公益財団法人日本体育協会(スポーツ協会)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力や運動レベルの差が大きいので、自己への挑戦・前向きな姿勢 (出席状況含む) を評価基準とする。 2. 実技試験への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、幼児体育への考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技試験・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15 回の授業内容、事前事後学習を記録するため、本授業専用のノートを用意する。最終授業で提出を求められることがあります。 ・ グループワークや模擬授業など、実践を通じた授業を実施します。 ・ 運動あそびの計画作成には、しっかりと時間を割り、資料収集を十分に行ってください。実践準備は、授業内だけで完結することは困難です。グループでの検討や作業においても授業時間外の準備を怠らないこと。この活動は、評定の方法の「授業への積極的な参加態度」に反映します。 ・ 子どもたちの「健康な心と体」を担う人材として活躍するために、『見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出す』(「幼稚園指導要領」より抜粋) を自ら実践するため、遅刻や欠席がないよう健康管理にも十分気をつけてください。 ・ 保育者として子どもや保護者の前に立つことを意識し、髪型や服装等の身支度を整えて下さい。また、授業実践の際には、運動にふさわしい服装 (ジャージ、T シャツ等。スカート・ジーンズ禁止) で参加のこと。 		
13. オフィスアワー	初回の授業で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 現代社会の環境と健康課題について ～子どもを取り巻く環境の変化～	事前学習	ノートを 1 冊準備する。 子どもたちの健やかな発育発達を阻む恐れのある現代社会での具体的な問題点を 3 つあげ、授業ノート①として記入する。
		事後学習	子どもを取り巻く環境の変化や健康課題について考察し授業ノート②として記入する。
第 2 回	子どもの発育発達における運動の意義	事前学習	子どもの発育発達により良い環境とは？保育者として配慮できる点を考え授業ノート③としてまとめ記入する。
		事後学習	0 歳から 3 歳までの発育発達について授業ノート④として記入する。
第 3 回	子どもの発達段階に応じた運動遊びについて	事前学習	4 歳～6 歳までの発達発育について授業ノート⑤として記入する。

			「幼児期運動指針」（文部科学省 2012）を文部科学省の HP より参照し印刷して持参する。
		事後学習	「幼児期運動指針」（文部科学省 2012）の目的について自身の考えをまとめ授業ノート⑥に記入し、発表できるよう準備する。
第 4 回	乳幼児期の運動機能と心の発達	事前学習	スキヤモンの発育発達曲線を授業ノート⑦として写し、グラフからの考察を記入する。
		事後学習	カウプ指数について調べ授業ノート⑧として記入する。
第 5 回	子どもの体操(リズム体操・こども体操)の保育実践	事前学習	幼児期の子どもに適したリズム体操を覚え実践できるようにする。
		事後学習	リズム体操の実践見本に必要な項目を振り返り、授業ノート⑨として記入する。
第 6 回	小型遊具・操作性の遊具を使った遊びの保育実践① —ボール・なわ・フープ・棒など—	事前学習	小型遊具を使った遊びを 3 つ考え、授業ノート⑩として図を用いて記入する。
		事後学習	本日の実践と振り返りを記録し、必要な点の資料収集を行い、 運動遊び指導案① を提出する。
第 7 回	小型遊具・操作性の遊具を使った遊びの保育実践② —ボール・なわ・フープ・棒など—	事前学習	操作性の遊具を使った遊びを 3 つ考え授業ノート⑪として図を用いて記入する。グループでの発表準備を行う。
		事後学習	本日の実践と振り返りを記録し、授業ノート⑫に記録する。
第 8 回	大型遊具や固定遊具を使った遊びの保育実践① —とび箱・マット・平均台・巧技台・すべり台・ぶらんこ・鉄棒等—	事前学習	とび箱とマットを使った運動遊びの環境設定を考え、授業ノート⑬として図を用いて記入する。
		事後学習	本日の実践と振り返りを授業ノート⑭に記録する。実践に必要な資料収集を行う。
第 9 回	大型遊具や固定遊具を使った遊びの保育実践② —とび箱・マット・平均台・巧技台・すべり台・ぶらんこ・鉄棒等—	事前学習	平均台・巧技台を使った遊びの環境設定を考え、授業ノート⑮として図を用いて記入する。
		事後学習	固定遊具を使った遊びを 3 つ考え授業ノート⑯として図を用いて記入する。
第 10 回	身近な素材を使った遊びの保育実践① —新聞紙・ひも・ペットボトル・テープ・段ボール—	事前学習	身近な素材を使った運動遊びを考え、 運動遊び指導案② を提出する。
		事後学習	本日の実践と振り返りを記録し授業ノート⑰として記録する
第 11 回	身近な素材を使った遊びの保育実践② —新聞紙・ひも・ペットボトル・テープ・段ボール—	事前学習	グループでの発表準備を行う
		事後学習	本日の実践と振り返りを記録し授業ノート⑱に記録する
第 12 回	運動会の企画と運営 —本番までの取り組みと本番でのアイデア—	事前学習	運動会のダンス種目にふさわしい音楽を選び、準備してくる。
		事後学習	グループワークの内容を考察し、授業ノート⑲として記入する。
第 13 回	伝統的な遊び・自然とかかわる運動遊び	事前学習	自分の住んでいる地域や関心のある地域の伝統的な遊びを 3 つ調べ、授業ノート⑳として記入する。
		事後学習	自然とかかわる運動遊びについて、四季（春夏秋冬）を 2 つ選んで計画を立てる。
第 14 回	幼児期の栄養と運動	事前学習	現代の食生活が子どもに与える影響について調べその考察を授業ノート㉑に記入する。
		事後学習	幼児体育指導上の安全対策についての考察を授業ノート㉒として記入する。
第 15 回	安全対策とリスクマネジメント ～安全な運動遊びの実践に向けて必要な点について～ まとめ	事前学習	子どもの体力増進について、2030 年までの施策を考え、発表できるようにする。
		事後学習	これまでの学習から、幼児体育指導者として必要な点・自分の課題や目標を課題レポートとして授業ノートに記入する。ノートを提出する。